

氏 名	嘉瀬 貴祥
学 位 の 種 類	博士（コミュニティ福祉学）
報 告 番 号	甲第450号
学位授与年月日	2017年3月31日
学位授与の要件	学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号） 第4条第1項該当
学 位 論 文 題 目	大学生におけるライフスキルと精神的健康の関連—リスク 要因としての攻撃性に注目して—
審 査 委 員	（主査） 大石 和男 濁川 孝志 安松 幹展 朝野 聡（杏林大学 保健学部 准教授）

I. 論文の内容の要旨

(1) 論文の構成

本学位論文は、図 1 に示す内容より構成されている。すなわち、第 1 章にて研究の背景、問題意識、関連する概念、研究目的について論じ、第 2 章から第 5 章にて量的および質的研究により研究の目的に関連する事象の解明を行い、第 6 章にてすべての研究結果をふまえた総合的考察を行うという構成である。

各章の概要については、次項に記載する。

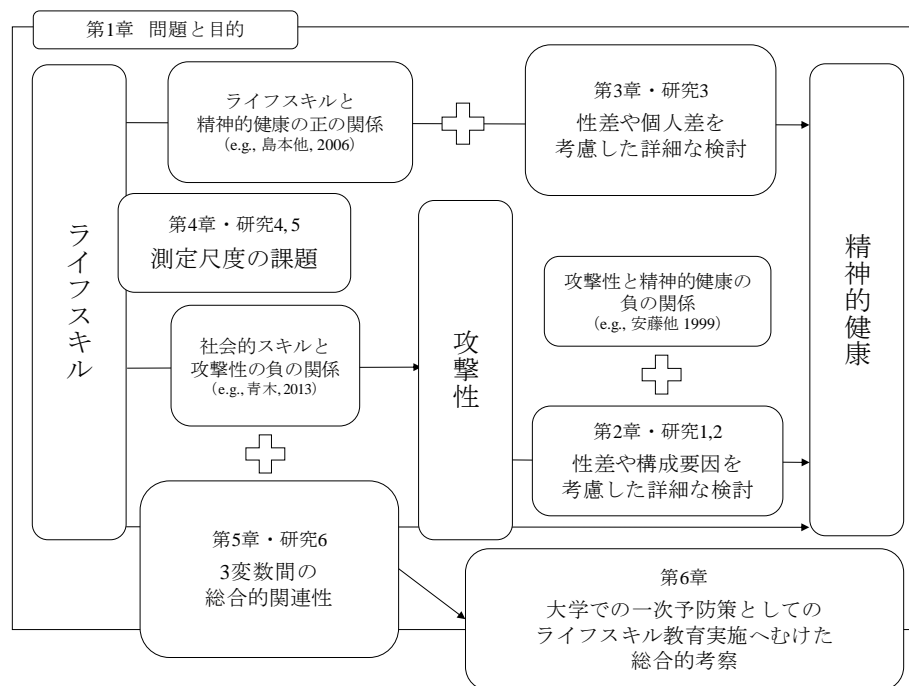


図 1 学位論文の構成

(2) 論文の内容要旨

第 1 章 問題と目的

現代社会においては、大学生における精神的健康の低下が問題となっており、これに対する一次予防策が求められている。精神的健康に対するリスク要因の一つとして注目されているのが、攻撃性である。さらに、攻撃性に対する一次予防策として有効であると考えられるのが、ライフスキル教育である。ライフスキルの向上は攻撃性を構成する短気（情動）、敵意（認知）、言語的・身体的攻撃（行動）を効果的に低減、調整する形で、精神的健康の向上に寄与する可能性が考えられるが、詳細な検討はなされていない。そこで本研究では、①攻撃性と精神的健康の関連性の詳細な検討、②ライフスキルと精神的健康の関連性の詳細な検討、③本研究の目的に沿ったライフスキル測定尺度の作成、④これらすべての結果をふまえたライフスキルと攻撃性および精神的健康の相互的関連性の検討という手順で、ラ

ライフスキルと攻撃性および精神的健康の関連について検討することとした。

第2章 大学生における攻撃性と精神的健康の関連

質問紙調査より得られたデータを統計的に分析した結果、タイプ A 行動様式を構成する要因のなかでも、精神的健康を低めるように作用する要因は攻撃性であることが示された。タイプ A 行動様式が精神的健康に対する直接的なリスク要因ではないことや、精神的健康に対するリスク要因として攻撃性に注目することの意義が示された。さらに、攻撃性における性差については、男性の方が女性より身体的攻撃の程度が高く、女性の方が男性より短気の程度が高いことが認められた。また、精神的健康と強く関連を持つのは短気と敵意であることが明らかとなった。

第3章 大学生におけるライフスキルと精神的健康の関連

まず大学生におけるライフスキルの特徴を探索的に検討し、さらにその特徴と精神的健康との関係を検討した。その結果、ライフスキルの獲得は精神的健康の向上に関連を持ち、大学においてライフスキルの総合的な向上を図るプログラムを実施することの重要性が示唆された。さらに、大学生においては異なるライフスキルの特徴を持った 5 つのグループがあり、それぞれ精神的健康の状態も異なることが明らかとなった。これらのことより、各グループの持つライフスキルの特徴や精神的健康の状態を考慮してプログラムを実施することで、対象者ごとの問題意識やニーズにある程度対応できると示唆された。

第4章 青年と成人に求められるライフスキルと測定尺度

加えて、一次予防の観点からは大学を卒業したのちの社会適応に必要なライフスキルについても検討する必要があるため、青年と成人に求められるライフスキルを構成する行動と思考を調査し、調査結果をもとに青年・成人用ライフスキル尺度 (LSSAA) を作成した。その結果、意思決定スキル、対人関係スキル、効果的コミュニケーションスキル、情動対処スキルの 4 因子で構成される尺度が作成された。また、信頼性や妥当性を検証した結果、この尺度で計測されるスキルは青年と成人の社会生活に必要な複合的な心理社会的能力であり、精神的健康とも正の関連を持つ、本研究の目的に沿ったライフスキルであることが認められた。

第5章 大学生のライフスキルと攻撃性および精神的健康の関連

上述した研究の内容をもとに、攻撃性の各構成要因について、男女別に共分散構造分析を行い、ライフスキルと攻撃性および精神的健康の関連を検討した。共分散構造分析で得られたすべてのモデルを概観すると、情動対処スキルとこれに関する前向きな思考、そして対人関係スキルとこれに関連する親和性といったライフスキルが、攻撃性の低減を介して、あるいは直接的に精神的健康の向上につながっていた。

第6章 総合的考察

すべての研究の結果より、攻撃性の低減と精神的健康の向上を目的としてライフスキル教育を実施するにあたっては、情動対処スキルと対人関係スキルを中心とした複数のスキルの向上を目標としたトレーニング・プログラムを組み合わせることが有効であると

推察された。また，基本的には性差を考慮してライフスキル教育を実施することが有効であると考えられる。

Ⅱ．論文審査の結果の要旨

(1) 論文の特徴

本論文の特徴として種々の点が挙げられる。その中でも行動のパターンを形成する核の一つとなりうる攻撃性に注目している点、および介入により攻撃性を変容させてライフスキルの向上を図り、結果的に若者の精神的健康の向上を目指そうという試みは他に類を見ない点といえよう。

ライフスキルを高めることが、現代社会における青年に関わる諸問題の解決に貢献する可能性が指摘できる。例えば、普段おとなしかった若者が突然大胆な攻撃的行動で周囲を驚かせることも少なくない。また、「キレ行動」などと称される敵意の表出される事例も指摘されて久しい。これらに共通するのは、「大胆な行動」の前には「沈黙」があるだけで、その間には外的な変化が観察できない点である。審査者のような年配の人間は、何らかの欲求不満を感じた場合、通常それを相手に対して何らかの形で少しずつ伝えようと試みる、つまり 1 か 0 の中間にある行動をとろうとするのである。この伝え方の良否を決定する要素の一つが、ライフスキルといっても過言ではない。

申請者も指摘するように、ライフスキルは WHO などの活動を通じて世界的に注目されながらも、本邦ではほとんど注目されてこなかった。しかしながら、現代社会では大学生に代表される若者の精神的健康の低下が問題となっており、国家全体の活力が低下することが危惧されるところである。健康心理学や行動医学の分野では、精神的健康のリスク要因として攻撃性が最も注視すべき因子の一つと認識されており、その発現の一次予防策として有効であると考えられるのがライフスキル教育である。申請者の研究は、関連した先行研究が極めて少ないなか、本邦の当該分野におけるベンチマークとなり得る研究として注目される。

本論文では、攻撃性をさらに情動、認知、行動に分類し、それぞれの要素を効果的に低減、あるいは調整する形で精神的健康の向上に寄与しようと試みている点や、特性的な資源である首尾一貫感覚などとの関連を示唆する点など、今後の研究の進展が期待されるところである。

(2) 論文の評価

本論文は博士論文に相応しく極めて論理的に構成され、先行研究も十分に考証がなされており、研究目的の設定の仕方も適切であった。また、量的研究と質的研究を用いて総合的かつ実証的に研究が行われたことも評価された。加えて、本論文を構成している個々の研究が、海外および国内の一流研究専門誌の審査を通過して論文として公表されている点は特筆すべきであろう。さらに、本論文で得られた知見はコミュニティ福祉学が関連する現場での活用が可能であるとともに、他の学際分野においても広く応用可能性が認められる。

以上の観点から、貴重な研究であると評価された。